

# 大島に住んだ小林一茶

小林一茶は宝暦13年(1763)、信濃の生まれ。平明な句風で、芭蕉・蕪村と並び江戸時代を代表する俳人とされます。

愛宕神社(江東区大島)の境内には一茶句碑「雀の子そこのけそこのけ御馬が通る」(平成2年[1990] 建立)があります。

一茶は、享和3年(1803)句帳に「江戸本所五ツ目大島愛宕山別当一茶園雲外」と記されていることから、当時大島2-6付近にあった愛宕神社に居住していたことがわかります。



## 小林一茶 年譜

年号	西暦	年齢	事項
宝暦13年	1763	1歳	5月5日、信濃国上水内郡柏原村(信濃町柏原)に生まれる。
明和2年	1765	3歳	母くになが死に祖母かなに育てられる。
明和7年	1770	8歳	継母さつが来る。
安永6年	1777	15歳	継母との折合いがわるく、春、江戸へ出る。
天明7年	1787	25歳	葛飾派俳人二六庵竹阿が大坂から江戸に帰り入門をする。
寛政2年	1790	28歳	葛飾派の溝口素丸に入門し執筆役をつとめる。この頃、江戸の夏目成美と知り合う。
寛政3年	1791	29歳	江戸を立ち、下総を遊歴の後、14年ぶりに帰郷する。
寛政11年	1799	37歳	正式に二六庵を継ぐ。
享和3年	1803	41歳	本所五ツ目大島の愛宕社に住む。
享和4年	1804	42歳	愛宕社をひき払い相生町5丁目に引越す。
文化3年	1806	44歳	4月3日深川で流山の双樹と歌仙。
文化4年	1807	45歳	隅田川永代橋落下事件。故郷でいたむ文を作る。
文化7年	1810	48歳	『七番日記』を書き始める。
文政2年	1819	57歳	『おらが春』を書く。
文政10年	1827	65歳	柏原に大火があって一茶の家も類焼する。11月19日、土蔵の仮住まいで亡くなる。

深川の辺を芭蕉忌廻り哉

やれ打な蠅が手をすり足をする

瘦蛙まけるな一茶是に有

一茶の代表的な句

「俳諧寺一茶肖像」  
『一茶句集』

江東区 ゆかりの人

# 小林一茶

